

報道関係各位

東京都世田谷区太子堂 2-16-5
株式会社 QLife (キューライフ)

患者自ら調べるなら復習型より予習型が効果的？
「治療法選択根拠」「他の選択」説明がされないケースも
～がん治療法決定時の医師説明&患者自習の実態調査～

月 600 万人が利用する日本最大級の病院検索サイト、医薬品検索サイト、医療情報サイトを運営する総合医療メディア会社の株式会社 QLife (キューライフ/本社: 東京都世田谷区、代表取締役: 山内善行) は、2012 年「がん情報の不足感」実態調査報告書(前半編)を発表した。これは 20～80 代の合計 2,210 人のがん当事者(がん患者 1,574 人、家族 636 人)の協力を得て実施したもので、主に以下の 2 項目について聞いた。

1. 「がんに関する情報の充/不足感」(一昨年・昨年調査に続く 3 回目)
2. 「治療法決定時の医師からの説明」がどうであったか、自分でも調べたか

それによると、がんの治療法については、「医師から説明を受ける前に自分で調べた患者」の方が、「医師説明後に調べた患者」よりも納得感は高くなり、また、その納得感は後々までのがん情報不足感とも関連する(不足感はなかなか解消されない)可能性が示唆された。

さらに、「治療法を決める際に、その他の選択肢について説明があった」50%、「その治療法を選ぶ根拠となる客観的情報が提示された」69%など、患者・家族の視点では必ずしも主治医から十分な説明なく治療法が決まっていると見えている実態が浮かび上がった。これらの説明有無も、がん情報不足感と関連性が強かった。

なお、本調査は厚生労働科学研究費補助金(第 3 次対がん総合戦略研究事業)『国民のがん不足感の解消に向けた「患者視点情報」のデータベース構築とその活用・影響に関する研究』(研究代表者: 京都大学大学院医学研究科・中山健夫教授)の一貫で行われたものである。

詳細な内容は以下をご参照ください。

【2012 年度 第 3 回「がん情報の不足感」実態調査】

<http://www.qlife.jp/cancer/category/anguish/paucity2012>

◆がん情報の不足感

⇒ <http://www.qlife.jp/cancer/anguish/paucity2012/story3855.html>

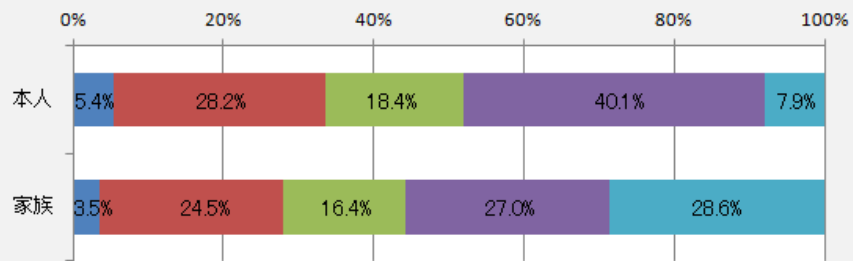
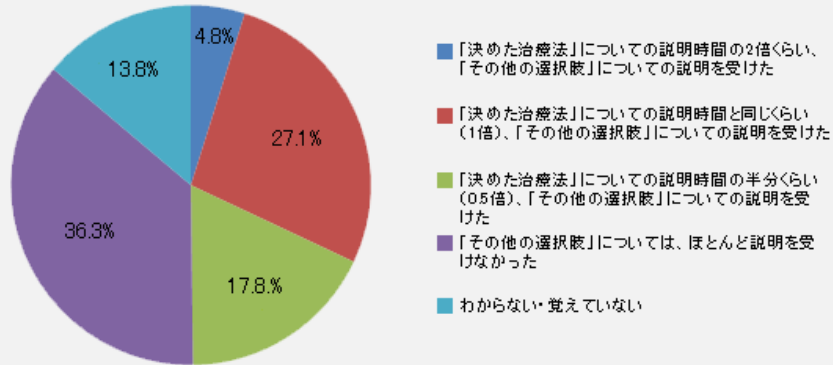
◆治療法に関する情報 前編

⇒ <http://www.qlife.jp/cancer/anguish/paucity2012/story3857.html>

◆治療法に関する情報 後編

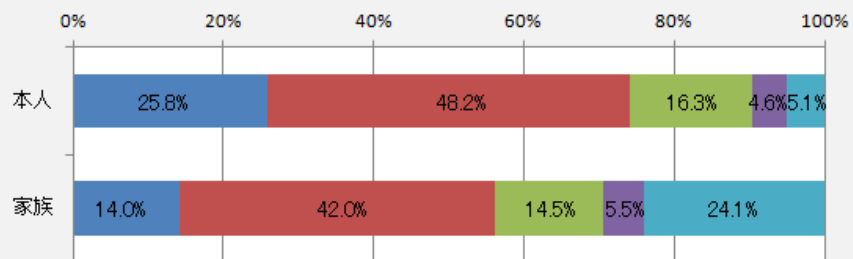
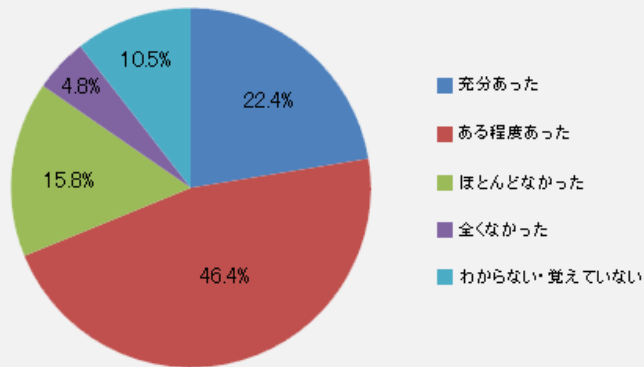
⇒ <http://www.qlife.jp/cancer/anguish/paucity2012/story3859.html>

治療法を決める際に主治医から 「その他の選択肢」について説明を受けたか

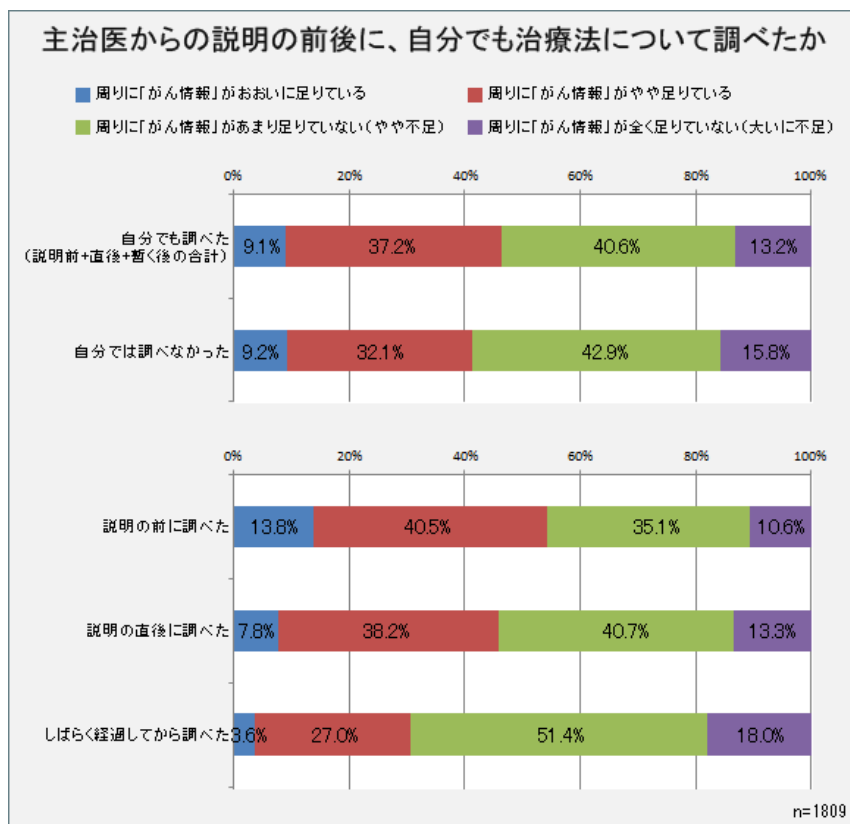
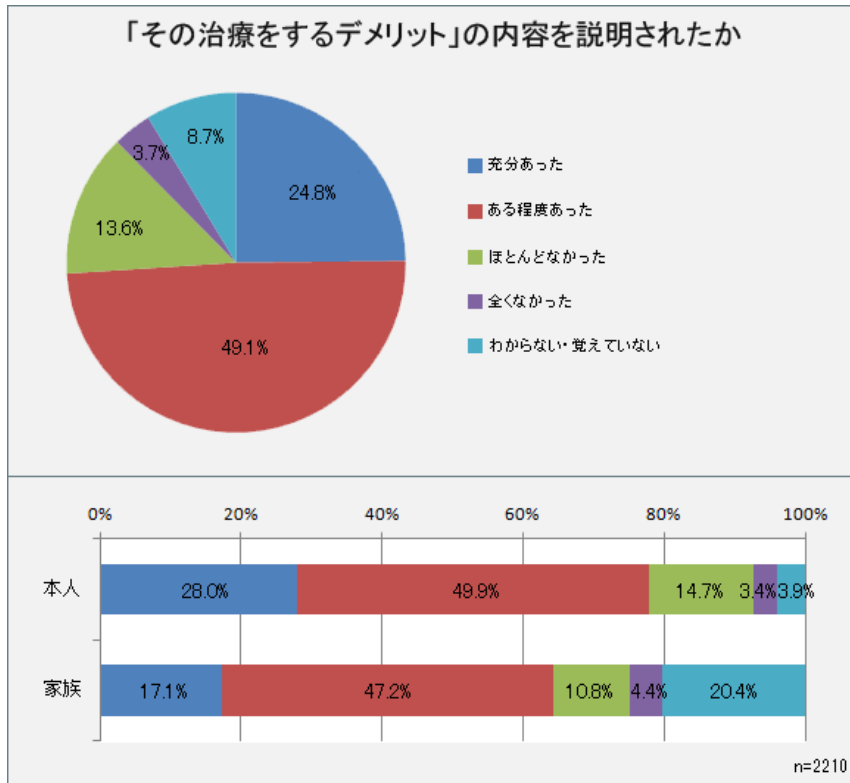


n=2210

主治医から「治療法を選ぶ根拠となる 客観的な情報」が提示されたか



n=2210





<株式会社 QLife の会社概要>

会社名： 株式会社 QLife (キューライフ)

所在地： 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 2-16-5 さいとうビル 4F

代表者： 代表取締役 山内善行

設立日： 2006年(平成18年)11月17日

事業内容： 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念： 医療と生活者の距離を縮める

サイト理念： 感動をシェアしよう！

URL： <http://www.qlife.co.jp/>

本件に関するお問い合わせ先：

株式会社 QLife 広報担当 田中

TEL : 03-5433-3161 / E-mail : info@qlife.co.jp
